

短期大学における情報系基礎科目の学習に関する考察 — 短期大学入学時における情報スキルの実態調査を基に —

柳田 健太¹ ・ 日高義浩² ・ 武村 順子³

A Study about Learning through the Basic Course of Information in Junior College : Based on a Survey of Information Skills when Entering a Junior College

Kenta YANAGITA¹ ・ Yoshihiro HIDAKA² ・ Junko TAKEMURA³

要旨：本論文は、短期大学の商業・経済学を主とする学科に入学した学生を対象として、短期大学入学時点での情報スキルの実態を明らかにするとともに、情報系基礎科目に関する学習内容について検討することを目的に研究を行った。研究方法として、対象の学生に情報スキルに関する質問紙調査を行い、調査結果から情報スキルの実態について明らかにした。その結果、専門学科高校出身の学生は、問題なく情報系基礎科目の学習に参加できるものの、普通科高校出身の学生については、ソフトウェアの操作が殆どできない学生も多数存在し、配慮を要することが示された。また、出身学科問わずコンピュータの基本操作やキー操作等については経験しているものの、出身学科に関係なく操作技術の向上を図ることも重要であることも明らかとなった。今後、学習指導要領の改訂に伴いコンピュータによる学習の低年齢化が進み、情報スキルの差がこれまで以上に大きくなることが予測される。そのため、高等学校卒業以降の学習に向けて円滑な接続を図るための仕組みづくりが必要であることを示唆した。

1. はじめに

平成30年度、宮崎県における高校卒業時の大学等進学率は、69.3%（男子：61.7%、女子77.1%）と報告されている^[1]。そのうち、短期大学への進学率は、12.3%（男子：1.6%、女子：20.8%）であり、短期大学への進学者のうち、女子生徒の割合は94.1%である。

宮崎県内には2つの短期大学があり、うち1つの短期大学には商業・経済学を主とする学科が設置されている（以下、M短大学科とする）。M短大学科では、およそ90.0%の学生が県内高校出身の学生である。同県立高校生徒募集定員（全日制）7,600人に占める割合は、普通科48.9%、専門学科45.8%、総合学科5.3%であり、全国平均は前者より69.0%、23.7%、7.3%と、全国のそれと比較すると専門学科に在籍する生徒が多いという特徴を挙げることができる^[2]。このような背景から、M短大学科に入学してくる学生においても、様々な学科を卒業した学生が多い。そのため、高校時の学習内容が大きく異なっており、特に情報に関する実技（以下、情報スキルとする）を伴う授業においては、学生の出身高校・学科でその差が顕著にみられる。

¹ 宮崎学園短期大学 ² 宮崎県立宮崎工業高等学校 ³ 宮崎学園短期大学

M 短大学科では、「情報処理論」、「情報処理演習Ⅰ」、「情報機器利用プレゼンテーション演習」の3科目を情報系基礎科目と位置づけ開講している。平成30年告示の高等学校学習指導要領（以下、高校学習指導要領とする）では、「大学や専門学校等における教育や社会的・職業的自立、生涯にわたる学習のために、高等学校卒業以降の教育や職業との円滑な接続を図^[3]」ることが示されている。そのため、短期大学においても情報系基礎科目に関し、円滑に学生が学習できるような流れ（仕組み）を作ることが重要であるものの、具体的な検討はなされていない状況にある。

本研究では、学生の入学時点での情報スキルの実態を明らかにするとともに、情報系基礎科目に関する学習内容について検討することを目的としている。研究方法として、M 短大学科に入学した学生に情報スキルに関する質問紙調査を行い、調査結果から情報スキルの実態について明らかにする。その結果を基に、情報系基礎科目のあり方について論究する。この研究を通して、入学時点における情報スキルの実態を明らかにするとともに、高等学校卒業以降の学習に向けて円滑な接続を図るための仕組みづくりに寄与したい。

2. 情報スキルの調査方法と調査内容

調査対象学生ならびに質問紙による調査の実施時期は、以下のとおりである。

- ・対象学科：M 短大学科1年
- ・対象学生：学生38名（男子学生3名、女子学生35名）
- ・調査時期：令和元年5月

なお、調査開始時に「この調査が成績等には反映しないこと、調査目的以外に使用することがないこと」を学生らに説明した上で調査を行った。質問項目について、図1に示す。質問項目は13項目あり、その全てが選択式の質問で、質問紙の最後に、性別、出身学科、高校時に取得した資格について問う構成とした。ここで、学生の出身学科などの質問を最後に設定したのは、先入観を持った回答を避けることなどを考慮したためである。また、アンケートについては、短期大学および大学の新生における入学以前のコンピュータリテラシーに関する先行研究を参考に作成した^[4]。

図1において、質問項目は、「情報スキル」に関する項目、「PC、スマホの取得、使用状況」に関する項目、「高校在籍時の情報の学習」に関する項目に分類することができる。それとは別に、前述したとおり、「学生の出身学科など」に関する分類ができる。問について、分野別に分類したものを表1に示す。本論文では、学生の情報スキルの実態を追究することを目的としていることから、「情報スキル」に関する項目および「高校在籍時の情報の学習」に関する項目の回答結果のみ分析する。ただし、前者の項目のうち、⑦と⑨、⑪については本論文の目的である情報スキルを計る上では直接的な影響がないと考えたため、ここでは省くこととした。

3. 調査データの分析結果

3.1 学生の属性と資格・検定試験の取得状況

本調査における質問紙回収率は100%であり、すべて欠損のないデータであった。

はじめに、項目分類「学生の出身学科など」の分析結果について、表2に示す。本表より、普通科：専門学科：総合学科 = 4：6：0であることがわかる。このことから、M 短大学科にお

① パソコンや情報処理関連の検定（資格）試験を受験したことがありますか。
1. はい 2. いいえ

② 自宅でデスクトップパソコンまたはノートパソコンを所有していますか。
1. 所有していない
2. 短期大学入学が決まり購入した
3. 高校の時から所有している
4. 中学校以前の時から所有している

③ 週平均でどのくらいの時間をパソコンの使用に当てていますか。
1. 全く使用していない、または、ほとんど使用していない
2. 3時間未満
3. 3～5時間
4. 5時間以上

④ パソコンの主な使用目的について教えてください（複数回答可）。
1. ホームページ閲覧
2. メールの送受信
3. YouTube等の動画視聴・閲覧
4. ネットショッピング
5. 文書作成やデータの集計・処理
6. DVD・CD等の再生
7. ビデオや画像等の編集・作成
8. LINE等のSNSの使用
9. 創作活動（音楽・イラスト等）
10. ゲーム
11. 勉強・学習の補助
12. 全く使用していない
13. その他（ ）

⑤ パソコンキーボードのキーの配置について、どの程度知っていますか。
1. とてもよく分かる
2. ある程度分かる
3. どちらともいえない
4. あまり分からない
5. 全く分からない

⑥ パソコンのキーボードによるタイピング（入力・打鍵能力）はどの程度できますか。
1. キーボードを見ないで両手で入力できる
2. キーボードを見ながら両手で入力できる
3. キーボードを見ながら両手の数本の指を使用して入力できる
4. キーボードを見ながら片手の数本の指を使用して入力できる
5. キーボードを見ながら片手の人差し指だけを使用する
6. 全く出来ない

⑦ パソコンの文書作成ソフトウェア（ワード等）に初めて触れた時期について教えてください。
1. 高校の授業
2. 中学校の授業（総合的な学習の時間など）
3. 中学校以前の授業（総合的な学習の時間など）
4. 使用したことがない
5. 高校卒業後
6. 学校以外のパソコン教室等
7. 家族の人に教えてもらった
8. その他（ ）

⑧ パソコンの文書作成ソフトウェア（ワード等）の使用・活用能力について教えてください。
1. ファイルの共有による共同編集作業などのさらに高度な使用・活用ができる
2. 差し込み印刷や校閲の設定などのやや高度な使用・活用ができる
3. 文字と図表による文書作成までの一般的な使用・活用ができる
4. 文字の入力と書式の設定などの簡単な使用・活用ができる
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない

⑨ パソコンの表計算ソフトウェア（エクセル等）に初めて触れた時期について教えてください。
1. 高校の授業
2. 中学校の授業（総合的な学習の時間など）
3. 中学校以前の授業（総合的な学習の時間など）
4. 使用したことがない
5. 高校卒業後
6. 学校以外のパソコン教室等
7. 家族の人に教えてもらった
8. その他（ ）

⑩ パソコンの表計算ソフトウェア（エクセル等）の使用・活用能力について教えてください。
1. ファイルの共有による共同編集作業などのさらに高度な使用・活用ができる
2. グラフやピボットテーブルの利用などのやや高度な使用・活用ができる
3. 関数や集計までの一般的な使用・活用ができる
4. データの入力と書式の設定などの簡単な使用・活用ができる
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない

⑪ パソコンのプレゼンテーションソフトウェア（パワーポイント等）に初めて触れた時期について教えてください。
1. 高校の授業
2. 中学校の授業（総合的な学習の時間など）
3. 中学校以前の授業（総合的な学習の時間など）
4. 使用したことがない
5. 高校卒業後
6. 学校以外のパソコン教室等
7. 家族の人に教えてもらった
8. その他（ ）

⑫ パソコンのプレゼンテーションソフトウェア（パワーポイント等）の使用・活用能力について教えてください。
1. スライドマスターを活用するなど、さらに高度な使用・活用ができる
2. アニメーション設定など、やや高度な使用・活用ができる
3. アニメーション設定を用いたスライド作成ができる
4. 文字や図表のみを使った簡単なスライド作成ができる
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない

⑬ 日々のパソコンとスマートフォンの使用頻度について、教えてください。
1. パソコンの使用時間のほうが長い
2. スマートフォンの使用時間のほうが長い
3. パソコンとスマートフォンの使用時間はだいたい同じ
4. その他（ ）

○ 最後に、あなた自身のことについて、教えてください。

・ 性別： _____
・ 出身学科： ☐ 普通科
☐ 農業科（農業科、園芸科学科、畜産科、生物工学科など）
☐ 工業科（機械科、電気科、情報技術科、インテリシア科など）
☐ 商業科（商業科、会計科、国際経済科、経営情報科など）
☐ 水産科（海洋科学科など）
☐ 家庭科（生活文化科など）
☐ 福祉科（福祉科など）
☐ 総合学科
☐ その他（文情情報科、理数科、フロンティア科、文理科、調理科など）

高校時に取得した資格： _____

図1 実施した調査の質問項目

ける情報系基礎科目に関し、出身学科により情報スキルが大きく異なることから、情報系基礎科目の学習内容を普通科出身とそれ以外とに分ける必要があると考えられる。また、農業科、水産科、福祉科、総合学科出身の学生は在籍していないことも分かった。そのため、これ以降の調査における分析において、その4学科については分析対象から省くこととする。

次に、項目分類「高校在籍時の情報の学習」の情報に関する資格取得者の出身学科別の分析結果について表3に示す。また、実際に取得している資格の一覧について表4に、各資格の内容からその難易度を除き、国家試験系、情報処理系、表計算系、ワープロ系、アプリケーション系、簿記系、電卓・珠算系、秘書系、語学系、その他の資格系に分け、その各取得者数の延人数を表5に示す。高校在籍時に、情報に関する資格を取得したM短大学科の学生38名のうち65.8%である。さらに、その学生らを分析すると、専門学科出身の学生23人のうち95.7%の学生が情報に関する資格を取得している。専門学科出身の学生は、「情報技術検定」、「情報処理検定」、「パソコン利用技術検定」、「ビジネス文書検定」、「ワープロ検定」のいずれかの資格を全員が取得しており、ワープロ作成ソフトおよび表計算ソフトについては、比較的レベルの高い内容まで高校生のときに学習済みということになる。その反対に普通科出身の学生は15人のうち20.0%であり、取得している資格は「情報処理検定3級」であった。著者らの情報系基礎科目の学習内容における分析の結果⁵⁾から、普通科出身と専門学科出身で、レベルに応じた目的や内容を設定する必要があるといえる。

表1 質問項目の分類

項目分類	質問項目
情報スキル	⑤パソコンキーボードのキーの配置について、どの程度知っていますか。 ⑥パソコンのキーボードによるタイピング（入力・打鍵能力）はどの程度できますか。 ⑦パソコンの文書作成ソフトウェア（ワード等）に初めて触れた時期について教えてください。 ⑧パソコンの文書作成ソフトウェア（ワード等）の使用・活用能力について教えてください。 ⑨パソコンの表計算ソフトウェア（エクセル等）に初めて触れた時期について教えてください。 ⑩パソコンの表計算ソフトウェア（エクセル等）の使用・活用能力について教えてください。 ⑪パソコンのプレゼンテーションソフトウェア（パワーポイント等）に初めて触れた時期について教えてください。 ⑫パソコンのプレゼンテーションソフトウェア（パワーポイント等）の使用・活用能力について教えてください。
PC、スマホの取得、使用状況	②自宅でデスクトップパソコンまたはノートパソコンを所有していますか。 ③週平均でどのくらいの時間をパソコンの使用に当てていますか。 ④パソコンの主な使用目的について教えてください。 ⑬日々のパソコンとスマートフォンの使用頻度について、教えてください。
高校在籍時の情報の学習	①パソコンや情報処理関連の検定（資格）試験を受験したことがありますか。
学生の出身学科など	

表2 M短大学科1年の出身学科に関する現状

出身学科	普通	専門学科							総合
		農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	その他	
人数(人)	15(1)	0	3	14(2)	0	4	0	2	0
割合(%)	39.5	0.0	7.9	36.8	0.0	10.5	0.0	5.3	0.0

単位：人（）内は男子学生

表 3 高校在籍時に情報に関する資格を取得した M 短大学科の学生数

全体	資格取得者				未取得者	
	25(65.8%)				13(34.2%)	
出身学科別	普通	専門学科				
		工業	商業	家庭	その他	
	3(20.0%)	3(100%)	14(100%)	4(100%)	1(50.0%)	

単位：人

表 4 高校在籍時に取得した資格一覧

分類	資格名	
情報系に関する資格	国家試験	基本情報技術者試験、IT パスポート
	検定試験	情報技術検定 1 級、情報技術検定 2 級、情報処理検定 1 級、情報処理検定 2 級、情報処理検定準 2 級、パソコン利用技術検定 1 級、ビジネス文書検定 1 級、ビジネス文書検定 2 級、ビジネス文書検定 3 級、ワープロ検定 2 級、Adobe Illustrator 能力検定スタンダード
ビジネス系に関する資格	日商簿記検定 3 級、全商簿記原価計算 1 級、全商簿記会計部門 1 級、全商簿記 1 級、全商簿記 2 級、全商経済検定 1 級、全商経済検定 2 級、計算技術検定 2 級、珠算電卓検定電卓部門 1 級、秘書検定 2 級、秘書検定 3 級	
教養系、その他の資格	漢字検定準 2 級、英検準 2 級、全商英検 2 級、全商英検 3 級、カラーコーディネーター検定 3 級、家庭科技術検定食物 1 級、家庭科技術検定被服 2 級、普通救命講習 I、保育検定 1 級、硬筆検定 2 級	

表 5 資格を取得している延人数

分類	区分	試験名	人数
情報系に関する資格	国家試験	基本情報技術者試験、IT パスポート	3
	情報処理	情報技術検定、情報処理検定	23
	表計算	パソコン利用技術検定	1
	ワープロ	ビジネス文書検定、ワープロ検定	18
	アプリ	Adobe Illustrator 能力検定	1
ビジネス系に関する資格	簿記	日商簿記検定、全商簿記検定、全商経済検定	19
	電卓・珠算	計算技術検定、珠算電卓検定電卓部門	12
	秘書	秘書検定	3
情報系に関する資格	語学	漢字検定、英検、全商英検	9
	その他	カラーコーディネーター検定、家庭科技術検定、普通救命講習、保育検定、硬筆検定	7

3.2 情報スキルの実態

ここでは、「情報スキル」に関する分類から、学生の情報スキルの実態について分析する。まず、質問項目⑥パソコンキーボードのキー操作スキルの分析結果について表 6 に示す。本表において、対象学生 38 人のうち 92.1%の学生がキーボードを両手で入力できると回答していることから、この点については問題なく情報系基礎科目の授業に参加できているものと考えられる。

次に、文書作成ソフトウェアのスキルに関する問⑧の分析結果について、表 7 に示す。全体の中央値となる「3. 文字と図表による文書作成までの一般的な使用・活用ができる」を下回る（4 ならびに 5）学生は、その殆どが普通科出身であることが分かる。このことに加え、「5. 使用したことがない、または、ほとんどできない」と解答している学生も含まれている。このことから、普通科出身の学生においては授業内における文書作成の時間配分を考慮して授業を進める必要が

表 6 M 短大学科 1 年のパソコンキーボードのキー操作スキル

	普通	専門学科				合計
		工業	商業	家庭	その他	
1. キーボードを見ないで両手で入力できる	0(0.0%)	0(0.0%)	5(35.7%)	2(50.0%)	0(0.0%)	7(18.4%)
2. キーボードを見ながら両手で入力できる	3(20.0%)	1(33.3%)	5(35.7%)	2(50.0%)	0(0.0%)	11(28.9%)
3. キーボードを見ながら両手の数本の指を使用して入力できる	11(73.3%)	2(66.7%)	3(21.4%)	0(0.0%)	1(50.0%)	17(44.7%)
4. キーボードを見ながら片手の数本の指を使用して入力できる	1(6.7%)	0(0.0%)	1(7.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(5.3%)
5. キーボードを見ながら片手の人差し指だけを使用する	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
6. 全く出来ない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(50.0%)	1(2.6%)

表 7 M 短大学科 1 年の文書作成ソフトウェアのスキル

	普通	専門学科				合計
		工業	商業	家庭	その他	
1. ファイルの共有による共同編集作業などのさらに高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
2. 差し込み印刷や校閲の設定などのやや高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
3. 文字と図表による文書作成までの一般的な使用・活用ができる	1(6.7%)	2(66.7%)	12(85.7%)	4(100%)	1(50.0%)	20(52.6%)
4. 文字の入力と書式の設定などの簡単な使用・活用ができる	10(66.7%)	1(33.3%)	2(14.3%)	0(0.0%)	1(50.0%)	14(36.8%)
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない	<u>4(26.7%)</u>	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(10.5%)

あるといえる。

続いて、表計算ソフトソフトウェアのスキルに関する問である⑩の分析結果について、表 8 に示す。全体の中央値となる「3.関数や集計までの一般的な使用・活用ができる」を下回る（4 ならびに 5）学生は、文書作成ソフトウェアのスキルと同様普通科出身の学生のみであることが示されており、「5. 使用したことがない、または、ほとんどできない」と解答している学生も含ま

れている。このことから、表計算についても普通科出身の学生に関し時間配分を考慮して授業を進める必要がある。

「情報スキル」に関する項目の最後であるプレゼンテーションソフトウェアのスキルに関する問である⑫の分析結果について、表 9 に示す。全体の中央値となる「3. アニメーション設定を用いたスライド作成ができる」をみると、専門学科出身の学生だけでなく、普通科出身の学生も経験していることが伺える。また、全体的な数値データをみると、文書作成ソフトや表計算ソフトに比べ、全体的に、経験者が多いことや高度スキルを備えている学生もいると伺える。そのため、文書作成ソフトや表計算ソフトに比べると、特別な配慮は必要ないものと考えられる。

表 8 M 短大学科 1 年の表計算ソフトウェアのスキル

	普通	専門学科				合計
		工業	商業	家庭	その他	
1. ファイルの共有による共同編集作業などのさらに高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
2. グラフやピボットテーブルの利用などのやや高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
3. 関数や集計までの一般的な使用・活用ができる	1(6.7%)	2(66.7%)	12(85.7%)	4(100%)	1(50.0%)	20(52.6%)
4. データの入力と書式の設定などの簡単な使用・活用ができる	10(66.7%)	1(33.3%)	2(14.3%)	0(0.0%)	1(50.0%)	14(36.8%)
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない	<u>4(26.7%)</u>	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(10.5%)

表 9 M 短大学科 1 年のプレゼンテーションソフトウェアのスキル

	普通	専門学科				合計
		工業	商業	家庭	その他	
1. スライドマスターを活用するなど、さらに高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
2. アニメーション設定など、やや高度な使用・活用ができる	0(0.0%)	0(0.0%)	5(35.7%)	1(25.0%)	0(0.0%)	6(15.8%)
3. アニメーション設定を用いたスライド作成ができる	6(40.0%)	1(33.3%)	6(42.9%)	2(50.0%)	1(50.0%)	16(42.1%)
4. 文字や図表のみを使った簡単なスライド作成ができる	8(53.3%)	2(66.7%)	3(21.4%)	1(25.0%)	1(50.0)	15(39.5)
5. 使用したことがない、または、ほとんどできない	<u>1(6.7%)</u>	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(2.6%)

4. 考察

前項の調査から表 10 のことが明らかになった。この結果から、高等学校卒業以降の学習に向けて円滑な接続を図るために以下の 2 つのことに考慮すべきであると考ええる。

1 点目は、キー操作スキルの熟達である。出身学科に関わらず、殆どの学生がパソコン操作をしたことがあるものの、十分なスキルを備えている学生は少ない現状であることが明確となった。情報スキルをより効果的に高めていくためにも、出身学科問わずキー操作スキルを向上させることが重要である。そのための方法の一つとして、先行研究にも示されているような支援システム⁶⁾などの活用も考えられる。

2 点目は、習熟度への配慮である。ソフトウェア等のスキルについては、普通科出身者と専門学科出身者の間で大きな差があることが示されている。そのため、学生の情報スキルレベルを考慮し、授業内容を分け習熟度別にシラバスを設ける必要があるといえる。

したがって、円滑な高大接続を図るためには、上述の 2 つの視点をふまえ授業展開を行っていくことが重要である。

表 10 分析結果のまとめ

調査内容	結果
・学生の属性	半数以上の学生が、専門学科出身である。
・資格取得	専門学科出身の学生は、情報に関わる資格を取得しており、文書作成ソフトおよび表計算ソフトについては、比較的レベルの高い内容まで高校時に学習済みである。
・文書作成ソフトウェアのスキル	専門学科出身の学生の殆どは、文書作成に関する一般的な操作ができるレベルにあるが、普通科出身者の多くは、基本的な操作もままならない学生が殆どである。
・表計算ソフトウェアのスキル	専門学科出身の学生の殆どは、表計算に関する一般的な操作ができるレベルにあるが、普通科出身者の多くは、基本的な操作もままならない学生が殆どである。
・プレゼンテーションソフトウェアのスキル	出身学科問わず全体的にプレゼンテーションに関する基本的な操作ができるとしている。そのため、「5. 使用したことがない、または、ほとんどできない」学生は 1 名しか存在せず、専門学科出身の学生の中には、高度なレベルに達している学生も存在する。

5. おわりに

本論文では、M 短大学科に入学した学生に質問紙による調査を行い、その調査結果から、学生の入学時点での情報スキルの実態を明らかにするとともに、情報系基礎科目に関する学習内容について検討することを目的とした。調査結果から、専門学科出身の学生は、最低限の情報スキルを備えており、問題なく情報系基礎科目の学習に参加できると考えられる。それに対し、普通科出身の学生については、高等学校において教科「情報」が必修化されているものの、ソフトウェアの操作が殆どできない学生も多数存在することが分かった。したがって、学生の情報スキルを意識し習熟度学習の導入などを検討していく必要がある。また、出身学科問わずコンピュータの基本操作やキー入力等について経験しているが、あくまで最低限度の習熟レベルであることから、出身学科に関係なく操作技術の向上を図ることも重要であるとの結論に至った。

今後、学習指導要領の改訂に伴い、コンピュータによる学習の低年齢化が進み、情報スキルの差がこれまで以上に大きくなることが予測される。そのため、入学してくる学生の状況に応じて、柔軟な対応ができる仕組みを構築していくことが望まれる。

参考文献

- [1]宮崎県（2018）：「平成 30 年度学校基本統計 -統計表-」
URL : <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/tokeichosa/kense/toke/gakkokihon/20180704145044.html>（最終アクセス：2019/3/21）
- [2]宮崎県産業教育審議会（2019）：「これからの本県産業教育の在り方について（答申）」、宮崎県産業教育審議会、pp.3-4
- [3]文部科学省（2018）：「高等学校学習指導要領解説総則編」、東洋館出版社、p.109
- [4]西川友子・伊豆田義人（2019）：「短期大学および大学の新入生における入学以前のコンピュータリテラシーについて」、山形県立米沢女子短期大学紀要、Vol.54、pp.79-102
- [5]日高義浩・柳田健太・武村順子（2019）：「短期大学における情報系基礎科目の学習内容に関する一考察 -高大接続の視点から-」、日本教育情報学会年会論文集、No.35、pp.266-267
- [6]渡邊光浩・翟婧璇・佐藤和紀・堀田龍也（2019）：「短大生の日本語キーボード入力スキルの実態把握と支援システムに求められる要件の検討」、鹿児島女子短期大学紀要、Vol.56、pp.87-92